

健康フォーラム継続決定

平成21年度公衆衛生活動対策専門委員会

- 日 時 平成22年1月21日（木） 午後1時40分～午後3時
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 20人
岡本健対協会長、武田委員長
野島・渡辺・神鳥・吉中・清水・大津・國頭・藤井・
中安・吉田・丸瀬・能勢・黒沢各委員
県体育保健課：西尾指導主事
県健康政策課：川本保健師
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

公衆衛生活動対策専門委員会の事業は活動範囲が広く、県民の健康フォーラム、公開健康講座の開催から疾病問題のQ&Aを新聞に掲載したりしている。もう一方では、従来設置されていた脳卒中登録対策、アレルギー対策専門委員会の事業内容もこの委員会に取り込まれた。非常に幅広い分野において、皆様にご協力頂いている。

鳥取県医師会としては、予算の問題もあり、「健康フォーラム」を一旦中止してはどうかという話も上がっているが、健対協事業としては、健康教育に大きな役割を果たしており、県においても推進して頂いていることもあり、継続する方向で再度検討している。忌憚のないご意見を頂きたい。

〈武田委員長〉

鳥取県知事は、現在、県民の経済を良くすることに走り回っておられる。経済は必要ですが、県民が安心して、健康な生活をして頂くには、医療

と保険、福祉が一体となった公衆衛生活動も必要です。委員の皆様からご意見を頂き、県民のための県、医師会、大学の活動を幅広く行っていきたいと考えます。

報 告

1. 平成20年度事業報告及び平成21年度事業中間報告

(1) 健康教育事業：武田委員長より報告

①健康フォーラム

○平成20年9月27日（土）ハワイアロハホールで開催。聴講者318名

「肥満、メタボリック症候群の予防・改善に向けて」

講師：京都大学大学院 人間・環境学研究科応用生理学研究室 教授 森谷敏夫先生

○平成21年9月26日（土）鳥取県立倉吉体育文化会館で開催。聴講者236名

「肝がんで命を落とさないために、三大肝炎を知ろう」

講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座機能病態内科学分野 教授 村脇義和先生

「肝がんの診断と治療」

講師：福山市民病院がん診療統括部長

坂口孝作先生

②日本海新聞健康コラム「保健の窓」を平成20年度は26回、平成21年度は1月現在で23回掲載した。

公開健康講座の講演内容について掲載している。

③日本海新聞健康コラム「健康なんでも相談室鳥取県医師会Q&A」を平成20年度は25回、平成21年度は1月現在で18回掲載した。

一般の方から疾病に関する質問を受付、それに対する回答を掲載している。

④鳥取県医師会公開健康講座、生活習慣病対策セミナー

毎月1回、鳥取県医師会公開健康講座実施。会場は鳥取県健康会館のほか、倉吉市、米子市内で1回ずつ開催。なお、鳥取県の委託事業である「生活習慣病対策セミナー」については年12回で、鳥取県医師会公開健康講座のうち6回を生活習慣病セミナーにあて、3地区においても2回ずつ同様のセミナーを実施。

平成19年4月より、鳥取県立図書館が講演会場へ出張し、講演内容に関連した図書の貸し出し業務を行っている。

(2) 地域保健対策

平成20年度からは東部医師会の石谷先生を中心に「学校検尿における2型糖尿病発生頻度およびフォローアップシステムの研究」を実施することとなった。

平成17年度から開始された鳥取県東部地区学童糖尿病検診に於いて、5名が自覚症状が出現する前の時点で糖尿病を早期発見され、早期治療介入されている。平成21年度に於いては新規の糖尿病患者は発見されなかった。

また、定期フォローアップのための糖尿病手帳の効果については、今後の検討が待たれるところである。

本事業に於いて2度目の検査になった学童が平

成20年度に1名、平成21年度に1名あり、将来経年的なデータの推移を比較検討する必要があると考えられた。

そこで今回、患児のプライバシー保護と継続フォローの観点から、ネット接続環境にない、データベース専用のパーソナルコンピューターにデータを集積する事とした。これによって今後の継続フォローがより容易になる事が期待される。

中、西部地区においても調査する計画はないのかという質問に対し、武田委員長からは関係者の協力を得られれば、将来的には全県下で調査を行いたいと考えているとの話だった。

(3) 生活習慣病対策事業

①地区における健康教育

〈東部医師会（大津委員）〉

1. 鳥取市市民健康ひろばにて、健康相談を行った。

2. 東部医師会健康スポーツ講演会を平成21年3月5日に開催し、参加者は71名であった。

3. 各会員による健康教育講演は、平成20年度は67回、平成21年度は12月末で89回行った。

〈中部医師会〉

1. 「住民健康フォーラム」を平成20年11月30日、メタボリックシンドロームをテーマに開催し、参加者は54名であった。また、平成21年度は10月4日に感染症から身を守ろう—予防接種の話—をテーマに開催し、参加者は44名であった。

2. 各会員による健康教育講演は、平成20年度は66回、平成21年度は19回行った。

〈西部医師会（國頭委員）〉

1. 健康教育講座を平成20年度は米子市内の公民館で19回、境港市で26回行った。また、米子市生活習慣病予防教室も9回行った。平成21年度は1月現在で米子市内の公民館で31回、境港市で14回行った。

2. 各会員による健康教育講演を平成20年度は73回行った。また、中海テレビで医師の出演による「健康プラザ」が放送されている。平成21年度は年度末にアンケートを行うこととしている。

昨年度の会議において、医師会員が地域、学校において住民のために公衆衛生活動された実績を地区医師会で取りまとめておくことが重要であるので、なるべく漏れのないように収集することが大事であるという意見があった。この意見を受けて、地区医師会においては、活動実績申請書の様式の見直しを行い、会員に対しアンケート調査を行った結果、より多くの医師から活動実績が上がった。

②健康医療相談

鳥取県健康会館において、面談による健康医療相談を毎月第1～4木曜日に行っている。第1木曜日は精神科、第2及び第4木曜日は内科、第3木曜日は整形外科で実施している。

平成20年度は78件、平成21年度は1月現在で56件の相談があった。

以上の事業報告から以下のご意見があった。

- ・県下の活動状況がとりまとめられているので、市町村、公民館、学校等の要請に対して多くの医師が健康教育活動を行っていることが分かった。
- ・図書館は独自の講演会の開催、鳥取県医師会公開健康講座においても、鳥取県立図書館が講演会場へ出張し、講演内容に関連した図書の貸し出しを行うというような活動を行っている。このように、図書館も地区の公民館と同様な役割を担おうと変わってきている。図書館の有効利用を考えてはどうか。
- ・医師の健康教育活動を通して、住民の検診受診

推進から病気予防につなげていけたらいいと思う。

- ・対象者のニーズに対し、どのような活動を行うのか考えていくことが大事である。
- ・自殺予防についても、今後、この委員会で検討して頂きたい。
- ・県としては、運動、ウォーキング、ストレッチ等の普及の取り組みという課題があり、簡単に出来るストレッチ運動のDVDがあるので、講演の前に活用することも検討して頂きたい。

協 議

1. 平成22年度事業計画（案）：武田委員長より説明

(1) 健康教育事業

- ①健康フォーラムは継続する方向で前向きに検討する。平成22年度は西部地区で開催予定。
- ②日本海新聞健康コラム「保健の窓」を年間25回掲載続行予定。
- ③日本海新聞健康コラム「健康なんでも相談室鳥取県医師会Q&A」を木曜日（月2回～3回）に掲載続行予定。
- ④鳥取県医師会公開健康講座、生活習慣病対策セミナー継続開催。

米子市、倉吉市の出前講座を年2回としているが、テーマによっては、回数を増やすことも検討してはどうかという意見があった。

(2) 地域保健対策

「学校検尿における2型糖尿病発症頻度およびフォローアップシステムの研究」を継続実施。

(3) 生活習慣病対策事業

地区医師会の健康教育、健康医療相談を継続実施。